様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和　6 年　6 月　28 日

郡 山 市 長　殿

提出者　株式会社 ヨークベニマル

住　所　福島県郡山市字石塚56－1

氏　名　代表取締役社長　大高 耕一路

（法人にあっては、名称及び代表者氏名）

電話番号　024-900-9339

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 ヨークベニマル（郡山第3ファクトリー）
事業場の所在地	福島県郡山市字石塚56－1
計画期間	令和5年 4月1日 から 令和6年 3月31日まで

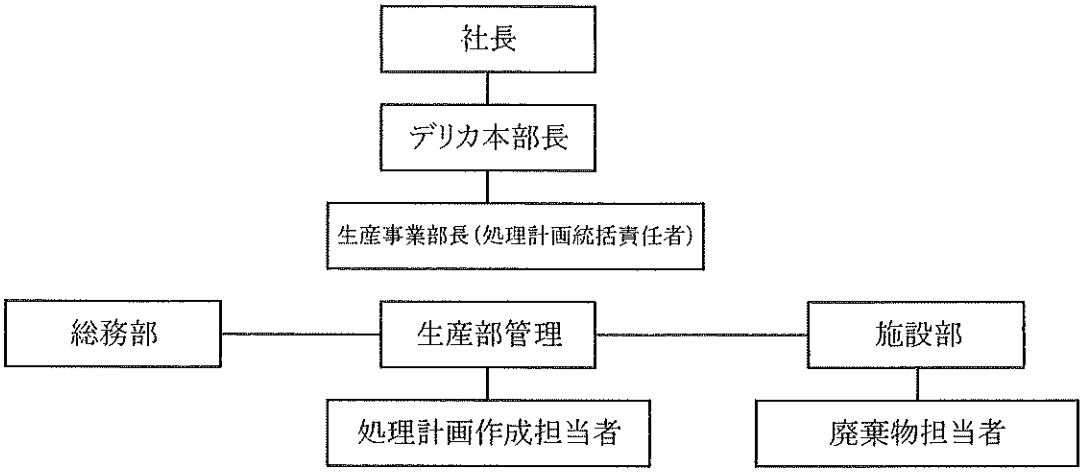
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	各種商品小売業　（56）
② 事業の規模	
③ 従業員数	
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙添付

（日本工業規格　A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

【前年度（令和　5　年度）実績】

産業廃棄物の種類	動植物性残渣（生ごみ）	汚泥
排　出　量	1198.03　t	223.80　t

産業廃棄物の種類	廃プラ	金属くず
排　出　量	34.45　t	0.29　t

産業廃棄物の種類	動植物性　廃油	脱水汚泥	
排　出　量	50.83　t	170.46　t	

（これまでに実施した取組）
過去の受注実績を基に、産業廃棄物の種類ごとの排出量を予測する。

②計画

【目　標】

産業廃棄物の種類	動植物性残渣（生ごみ）	汚泥
排　出　量	1120.00　t	200.00　t

産業廃棄物の種類	廃プラ	金属くず
排　出　量	30.00　t	0.20　t

産業廃棄物の種類	動植物性　廃油	脱水汚泥	
排　出　量	45.00　t	150.00　t	

（今後実施する予定の取組）
発生抑制を考慮した形状での仕入れ

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状

（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

食品残渣・廃食用油についてはリサイクル100％を目的に、
廃プラスチック・金属類を適正に分別する。

②計画

（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

これまで実施した取組みを継続し、適正に分別する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

【前年度（令和　5 年度）実績】

産業廃棄物の種類	動植物性残渣（生ゴミ）	動植物性残渣（オカラ）
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	― t	― t
産業廃棄物の種類	廃食用油	
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	― t	― t

（これまでに実施した取組）

自ら再生利用は行わない。

②計画

【目　標】

産業廃棄物の種類	動植物性残渣（生ゴミ）	動植物性残渣（オカラ）
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	― t	― t
産業廃棄物の種類	廃食用油	
自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	― t	― t

（今後実施する予定の取組）

実施予定は無い。

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

【前年度（令和　5　年度）実績】

産業廃棄物の種類	動植物性残渣（生ゴミ）	動植物性残渣（オカラ）
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	― t	― t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	― t	― t
産業廃棄物の種類	廃食用油	
自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	― t	― t
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	― t	― t

（これまでに実施した取組）

自ら中間処理は行わない。

②計画

【目　標】

産業廃棄物の種類	動植物性残渣（生ゴミ）	動植物性残渣（オカラ）
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	― t	― t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	― t	― t
産業廃棄物の種類	廃食用油	
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	― t	― t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	― t	― t

（今後実施する予定の取組）

実施予定は無い。

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和　5　年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣（生ゴミ）	動植物性残渣（オカラ）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	－　t	－　t
	産業廃棄物の種類	廃食用油	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	－　t	－　t
	（これまでに実施した取組） 自ら埋立処分又は海洋投入処分は行わない。		
②計画	【目　標】		
	産業廃棄物の種類	動植物性残渣（生ゴミ）	動植物性残渣（オカラ）
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	－　t	－　t
	産業廃棄物の種類	廃食用油	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	－　t	－　t
	（今後実施する予定の取組） 実施予定は無い。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和　5　年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙添付	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組） 委託基準に従って業者に委託し、処理後に廃棄物の処理状況の確認を行う。		

	②計画	【目　標】		
		産業廃棄物の種類	別紙添付	
		全処理委託量	t	t
		優良認定処理業者への処理委託量	t	t
		再生利用業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者への処理委託量	t	t
		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
		（今後実施する予定の取組） これまで実施した取組みを継続し、廃棄物処理業者を選定する際には、優良認定業者から行うことを推進する。		
※事務処理欄				

備考

1　前年度の産業廃棄物の発生量が1，000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。

2　当該年度の6月30日までに提出すること。

3　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4　「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5　「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。

7　※欄は記入しないこと。